



平成27年度 城山地区地域活性化事業交付金 交付決定事業実績

平成28年3月31日現在

事業等の名称	団体名	事業実績の概要				交付決定 年月日	交付金額 (単位:円)
		事業の目的	事業の実績	事業の成果	事業実施団体による自己評価		
1 しろやまオレンジカフェ	城山町家族を支える会	しろやまオレンジカフェを開催し、地域住民、行政、福祉関連事業所が一堂に会して顔の見えるネットワークを築き、認知症の人とその家族を支えるまちづくりを進めることを目的とする。	開催日:5月16日(土) 場所:城山保健福祉センター2階 内容:カフェ・情報コーナー・相談コーナーの開設、認知症ミニ講座、音楽療法等 参加者数:80名	地域住民が親しく集うカフェの開設や認知症ミニ講座等を実施することで、地域住民に対して認知症の正しい知識を周知することができた。 また、相模原市や社会福祉協議会等と地域住民が協働で事業を実施したことにより、事業の目的である顔の見えるネットワークを構築するための、「繋がる」きっかけづくりができた。	地域団体が協働して事業を実施することで、地域に広く働きかけができたことは、高齢者や認知症患者の支援に大きく役立ったと評価している。 今後、地域住民やサロン活動との連携を深めていくことで、地域全体で認知症や高齢者への理解・支えあいを考えることにつながると感じている。	H27.5.15	68,000
2 しろやま得の市～久保沢の市～	しろやま得の市実行委員会	城山地区で唯一、商店が集積している城山総合事務所前の人通りが少なくなっており、一昔のにぎわいが失われ、地域に活力が無いように感じられることから、「しろやま得の市～久保沢の市～」を開催し、城山総合事務所前道路沿いのにぎわいを創出することを目的とする。	第1回 日時:9月27日(日)10:00～13:30 場所:城山総合事務所前道路 出店者数:32店舗 来場者数:約2,500人 第2回 日時:3月27日(日)10:00～13:30 場所:城山総合事務所前道路 出店者数:32店舗 来場者数:約2,700人	来場者増加を目的とした企画として、子ども離子やキッズダンスのパフォーマンスに加え、新たに福引抽選会を実施した。 また、本来の目的である各店舗のPRについては、店主による会場でのチラシ配布や本部テントでのチラシの掲示を行った。イベント終了後には各店にアンケート調査を実施したところ、商品・サービスのPRや販売が出来ているとの結果が出た。	当イベントが商業者及び地域住民を巻き込んだイベントとなったことは大きな成果であったと評価している。 当イベントの知名度は城山地区内では徐々に浸透してきたが、子育て世代(30歳～40歳)への認知度が低く、広く周知し続けることが必要であること、出店店舗の店舗名表記の掲示についても実現できていないことが、次回以降の課題であると感じている。	H27.5.21	530,000
3 葉山島地域活性化事業	湘南みらい実行委員会	次世代の担い手の人材育成や地域内で活動している自治会、育成会、老人会がより一層連携を深めることが重要であることから、「地域活性化」をキーワードとして地域住民が一体となり、「秋の収穫祭」を開催することにより、当地域に多くの観光客を呼び込むとともに地域全体の目的である葉山島の地域振興と活性化を図ることを目的とする。	開催日:10月4日(日) 内容:落花生の収穫体験及びさつま芋販売、地元野菜・加工食品の直売、模擬店、地域の観光案内、その他のイベントコーナー 広報:チラシ配布、タウンニュース(緑区・中央区) 来場者数:約700名	地元農産物生産者が販売した新鮮な地場野菜は参加者から大変好評で、余剰であった野菜の売り上げ向上に結びついた。一方、生産者もイベントでの販路拡大が図れたことから、休耕地の活用にも積極的になり、休耕地の解消に繋がるとともに、農商工連携への糸口となった。また、地域内で活動している自治会、育成会、老人会が積極的にイベントに参加したことにより、葉山島地域一帯の連携をより一層深めることができた。	秋の収穫祭は、年を重ねる毎に認知度が高まり、葉山島の秋の風物詩として定着するとともに地域の活性化が図られたことは大きな成果であったと評価している。今後も葉山島周辺の団体との広域的な連携により一層事業を推進していきたい。 また、城山観光協会や城山商工会とも引き続き協力関係を継続し、共に協力し合いながら地域一帯の活性化を図るとともに、開通した圏央道も視野に入れた活動を行っていきたい。	H27.5.29	71,000
4 地域の文化振興と青少年の健全育成事業	特定非営利活動法人城山スポーツ&カルチャークラブめいぷる	未来ある子どもたちの健全育成、親子のふれあいの深耕、地域住民間の交流促進を図る事業を通じて、地域コミュニティの再生を進めることを目的とする。 具体的には、親子関係の強化(絆の再認識)、文化の振興、もみじホールのランドマーク化を目指す。	事業プログラム 開校式スクーリング #2スクーリング #3スクーリング #4スクーリング&修了式 内容 宇宙をテーマにしたお話と工作実験、家庭学習発表 参加親子 19組(参加率は毎回ほぼ100%)	身近な素材を使った「実験や工作」を通して「いのちの大切さ」を気づかせ、ひとりひとりの心に好奇心・冒険心・匠のこころを育むという、これまでにない視点による親子教室で、修了式後のアンケートでも、良好に受け入れられていたことから、目的は理解されたと考えている。未来に生きる子どもたちに健全な思考を育むという目的の貢献度は高く、また、もみじホールを城山地区のランドマークにするという目的と噛み合った事業とすることができた。	19組の親子の参加率がほぼ100%であったこと、アンケートでも良好に受け入れられたことは大きな成果であったと評価している。また、家庭学習の発表も、繰り返すうちに上達していく様子が認められた。 課題は参加親子数で、学校側も事業の意義は認めているものの、児童に対して積極的に参加を勧めてはいないため、今後はより一層、地域の各種団体と連携し、参加親子が増加するように活動を進めていきたい。	H27.5.21	430,000

	事業等の名称	団体名	事業実績の概要				交付決定 年月日	交付金額 (単位:円)
			事業の目的	事業の実績	事業の成果	事業実施団体による自己評価		
5	地域の防災・防犯に関する事業	自治会法人小松自治会	地域住民の防犯意識を高め、犯罪「ゼロ」を目指し、こころ豊かで明るく住みよいまちづくりの一翼を担うことを目的とする。	パトロール活動は計画通りに実施することができた。また、町屋、城北、若葉台の各地域の巡回も行った。 ポイ捨て防止ポスターは地域の子どもたちに依頼して作製したため、9月後半からの活動となったが、効果は予想を大きく上回り、素晴らしい成果を上げている。 周辺に防犯パトロール実施中ののぼりを設置するなど、防犯意識向上の啓発活動等を実施した。	子どもたちが描いた「ポイ捨て防止ポスター」の掲示によって、ポイ捨てゴミが激減した。さらに範囲を広げて監視やポスター掲示を実施しゴミの減量化が実現できれば、安心・安全で住み良い地域を維持することができると思う。 昼間・夜間の防犯パトロールは、犯罪の抑止に役立っており、これを継続することで、隣接する町屋、城北、若葉台地域の防犯効果も高まると思う。	計画通りに実施するためには住民の協力が不可欠であった。 犯罪の抑止としてパトロールや旗などによる啓発活動は有効であるが、それに加えて、被害防止に有効な知識や犯罪手口などの情報を広報紙により住民に知らせるなど、積極的に活動することができたことは大きな成果であったと評価している。今後は隣接する町屋、城北、若葉台地域の住民同士が情報の共有化を進め、安心・安全な住みよいまちづくりを進めることが必要である。	H27.5.21	176,000
6	しるやま安心袋配布事業	城山地域ケア会議 しるやま安心袋配布事業実行委員会	周囲とのかかわりを持たない高齢者等への声かけ、見守り活動を行い、民生委員と対象者とのコミュニケーションを図りながら、孤立死する高齢者を出さないまちづくりを進めることを目的とする。	ひとり暮らし高齢者等戸別訪問事業の対象者に加え、75歳以上の一人暮らし高齢者及び高齢者のみ世帯を対象にホイッスル、懐中電灯、あんしんカードなどをセットにした「しるやま安心袋」を作成し、配布を行った。「しるやま安心袋」の作成に当たっては、障害者デイサービスセンターつくしの家の協力を得るとともに、配布に当たっては、全面的に民生委員の協力を得て行った。	ひとり暮らし高齢者等戸別訪問事業の実施に合わせて行ったが、戸別訪問事業では訪問対象にない世帯も「しるやま安心袋」の配布対象としたことにより、配布をきっかけとしてこれまでに訪問できなかった方もかかわりを作ることができた。また、あんしんカードの説明によって緊急時の対応について話題にすることができ、この事業をきっかけに新たに支援につながったケースも7件あった。	配布をきっかけとして、これまでに訪問できなかった方とのかかわりを作ることができたことは大きな成果であったと評価している。配布対象者を75歳以上のひとり暮らし高齢者及び高齢者のみ世帯としたが、名簿の突合により配布対象の確認を行ったところ、実態との差異があることが分かった。また、自治会では、災害時要援護者の把握と合わせて緊急時の連絡先を確認する取り組みが行われており、今後は、さらに多くの関係団体との連携体制を構築したい。	H27.5.21	300,000
7	自治会加入促進事業	城山地区自治会連合会	地域コミュニティの基盤である自治会活動を積極的にPRすることで、自治会の加入者増と活動の活性化を図ることを目的とする。	自治会加入促進用横断幕の作成・掲示 自治会加入促進事業の実施 城山もみじまつり 実施日:10月18日(日) 内容:ポスター掲示、チラシ配布 福祉のつどい 実施日:11月3日(火) 内容:啓発物品配布 城山地区敬老事業 実施日:11月13日(金) 内容:ポスター掲示、チラシ配布	城山もみじまつりの自治会加入促進事業では、単位自治会ごとに趣向を凝らしたポスター・チラシを作成し、掲示・配布したところ、大勢の来場者の目に留まり、自治会加入促進のPRになった。 また、地区内の5自治会が市と災害時要援護者避難支援事業の協定を締結するとともに、協定を結ばない自治会も独自の取り組みを行い、高齢者の自治会退会防止につながった。	自治会加入率が低下する中、自治会加入促進の一環として、災害時要援護者避難支援の周知を行ったことで、高齢者の自治会退会防止につながったと感じている。自治会加入率の低下は地域活力の低下につながると考えられることから、今後も継続的に事業を実施していきたい。	H27.7.22	130,000
8	地域住民の交通安全に関する事業	城山地区まちづくり会議 暮らし部会	地域住民の交通事故による被害防止を図ることを目的とする。	啓発看板の作成・設置 城山高校との意見交換及び事業報告 まちづくり懇談会での市との情報共有 市及び津久井警察署へ交通要望書の提出	地域の交通安全に関する課題について、行政や各種団体から聞き取り調査を行い、現地調査をした上で、特に危険性が高いと思われる課題について、様々な取り組みを行った。その結果、要望事項については早期に対応してもらうなど、安全安心なまちづくりに貢献することができた。また、高校の学校長や生徒指導の責任者との意見交換等を行い、今後も連携して取り組みたいとの要望を受けるなど、高校との連携を強化することができた。	交通安全対策では、公安委員会に権限があるものが多く、また、多額の予算を必要とすることから、自分達で何ができるのか検討した結果、啓発、要望、情報共有を行った。地域での交通安全に関する課題はまだ残されており、今後も継続して課題に取り組むことが求められている。	H27.7.22	45,000
								1,750,000